

令和7年度 出資団体評価シート

1 基本情報

団体名	株式会社 札幌振興公社	所管課	経) 観光・MICE推進課
基本財産	562,600千円	記入者	担当 及川 電話 011-211-2376
設立年月日	昭和32年(1957年) 7月12日	本市出資額	477,600千円 (出資割合 84.9%)
設立・出資目的	公共用地の先行取得事業、不動産賃貸事業、児童遊園施設等の経営を行うことを目的に設立。平成10年12月に㈱札幌交通開発公社を吸収合併し、藻岩山ロープウェイ等の事業を引き継いだ。 当初、公有地の先行取得を主な目的としていたが、現在は、不動産の賃貸、駐車場等の公益的事業の管理運営、観光・スポーツ施設の管理運営等を通じて都市機能の維持向上を図ることを目的としている。	出資年月日	昭和32年(1957年) 8月31日
代表者	代表取締役社長（常勤） 栗崎 寿也（市OB）	沿革	昭和32年 会社設立 昭和60年 藻岩山ロープウェイ営業開始（※） 平成8年 大倉山ジャンプ競技場等の管理開始 平成10年 ㈱札幌交通開発公社と合併 平成23年 藻岩山ロープウェイリニューアル ※印は札幌交通開発公社の事業
主な出資者	① 札幌市 (84.9%) ② ㈱北洋銀行 (7.1%) ③ ㈱北海道銀行 (3.6%) ④ 北海道瓦斯㈱ (1.8%) ⑤ ㈱さっぽろテレビ塔 (1.6%) ⑥ 札幌商工会議所 (1.1%)	団体所在地	〒 060-0012 札幌市中央区北12条西23丁目 2 番 5 号SDC北12条ビル 電話 011-616-1601

2 実施事業

（詳細については事業評価シート参照）

(1) [No.] [主要事業名] (該当ページ)	[設立・出資目的と当該事業との具体的な関連性]
① 不動産賃貸・駐車場事業等（5ページ）	② 札幌駅周辺自転車等駐車場管理（6ページ）
不動産賃貸については、札幌市の要請に基づいて建設したビル等の経営や公社所有地の有効活用を通じて、都市機能の向上に寄与する。直営駐車場について、地下鉄駅等の交通機関の要衝に位置しており、パークアンドライドを目的とした駐車場を中心に管理運営し、都心の渋滞緩和や公共交通機関の利用促進を促すことに寄与する。	指定管理者として札幌駅周辺の駐輪場の適切かつ円滑な管理を行う。
③ 大通周辺自転車等駐車場管理（7ページ）	④ ジャンプ競技場等の管理運営（8ページ）
指定管理者として大通周辺の駐輪場の適切かつ円滑な管理を行う。	ジャンプ競技場の指定管理等を通じて、ジャンプ競技に対する市民の理解を深め、普及振興及び競技力の向上を図る。また、オリンピックミュージアムのリニューアル及びオリンピックミュージアムネットワークへの加盟を契機として、オリンピズムの普及啓発を図る。
⑤ 藻岩山観光事業（9ページ）	⑥ 料飲事業（10ページ）
札幌の観光を代表する藻岩山は、その自然を生かした観光資源として、保全と活用によって魅力アップを一層促進し、市民には誇りと、観光客には喜びや、驚きを与える観光名所として重要な役割を担っている。	さっぽろテレビ塔レストラン「ザ ガーデン サッポロ」、藻岩山レストラン「ザ ジュエルス」及び大倉山レストラン「ヌーベルブース大倉山」の3レストランを一体とし「SAPPORO VIEWTIFUL DINING」を銘打ったプランディングを行い、観光事業と連動した企画展開や広告宣言を活用し、PRと集客施策を実施することにより観光振興に寄与する。
⑦	⑧
(2)総支出に占める事業支出割合	86.2% (主要事業支出合計 2,807,142千円 + 総支出 3,257,410千円)
(3)主要事業の有効性 (出資・設立目的に対して事業効果は、十分出ているか)	
評価	<input type="checkbox"/> 十分出ている <input checked="" type="checkbox"/> 高める余地あり <input type="checkbox"/> 出していない
理由	札幌の観光を代表する藻岩山や大倉山の魅力向上に努めたことは、本市の観光振興に寄与しており、札幌振興公社が行うその他各事業においても、出資・設立目的に対して一定の効果が出ているものとするが、今後、事業効果をより一層高めていく必要があると認識している。
(4)主要事業の質・量 (出資・設立目的の達成のために、必要十分な事業が実施されているか)	
評価	<input type="checkbox"/> 実施されている <input checked="" type="checkbox"/> 一部見直す必要がある <input type="checkbox"/> 実施されていない
理由	主要事業については、出資・設立目的を達成するために必要な事業を実施しているものと認識しているが、料飲事業に関しては事業の採算性などを見直す必要がある。

3 団体職員・構成員等

令和7年4月1日現在(単位:人)

	本市OB	本市派遣	プロパー	その他	総数
役員					
常勤取締役	4	0	2	0	15
常勤監査役	0	0	0	0	
非常勤取締役			7		
非常勤監査役			2		
職員					
常勤管理職	1	0	10	1	213
常勤一般職	0	0	48	97	
非常勤職員			56		

プロパー職員の年齢構成			
10歳代	0	40歳代	18
20歳代	5	50歳代	16
30歳代	19	60歳代	0
平均年齢		42.0	歳

役員の任期		
取締役	2	年
監査役	4	年
代表権のある役員の就任年月		
取締役	R8.6	
監査役	-	
職員総数の推移(人)		
R05.4.1時点	185	
R06.4.1時点	200	

4 財政状況

※数字は団体決算ベース（金額単位：千円）

区 分			R5年度決算	R6年度決算	(経常収入比)	(前年比)	
財務状況	経常収入内訳		経常収入 (a+f)	3,214,451	3,409,318	(100.0%)	(+194,867)
	損益計算書	営業	売上高 (a)	3,166,904	3,361,676		(+194,772)
			営業費用 (b)	3,059,474	3,257,410		(+197,936)
			うち販売費・一般管理費 (c)	1,941,766	2,024,896	(59.4%)	(+83,130)
			うち人件費(d)	855,756	919,869	(27.0%)	(+64,113)
			営業利益 (e)	107,430	104,266		(▲ 3,164)
		営業外	営業外収益 (f)	47,548	47,643		(+95)
	当期純利益(g)		62,485	47,133		(▲ 15,352)	
	貸借対照表	資産(h)		12,870,931	13,517,817		(+646,886)
		流動資産(i)	1,187,270	1,634,036		(+446,766)	
		固定資産(j)	11,683,662	11,883,782		(+200,120)	
		負債(k)		10,487,261	11,092,992		(+605,731)
		流動負債(l)	1,468,897	1,632,445		(+163,548)	
		固定負債(m)	9,018,364	9,460,547		(+442,183)	
		純資産(n)		2,383,670	2,424,825		(+41,155)
		資本金(o)	100,000	100,000		(0)	
		借入金残高(p)		4,116,632	4,995,015		(+878,383)

R6年度決算の概要

区分	当期収入の増減、収支の状況、資産・負債の大幅な変動の要因等
a	円安の影響によるインバウンドの増加により、観光事業・飲食事業を中心に売上が前年より増加
h	すすきの市街地ビルの住宅部分を所有していたUR都市再生機構の撤退により、将来の建物解体費相当額として2億8,000万円を受領したことによる増加
k	北8西1再開発事業及び大谷地アドバンシービル改修工事に係る資金調達（借入）による増加

※詳細は、別添の貸借対照表、損益計算書を参照。

5 本市の財政的関与

※数字は札幌市決算ベース（金額単位：千円）

区 分	R5年度決算	R6年度決算	(前年比)
市補助金・交付金・負担金	2,764	4,365	(+1,601)
市委託料	257,931	264,686	(+6,755)
市業務委託料	7,519	7,632	(+113)
うち随意契約	1,565	1,196	(▲ 370)
市指定管理費	250,412	257,054	(+6,642)
うち非公募	202,692	208,121	(+5,429)
(参考) 再委託額	161,059	163,889	(+2,830)
うち市業務委託分	0	0	(0)
再委託率	(62.4%)	(61.9%)	(▲ 0.5%)
市貸付金	0	0	(0)
市貸付金残高	0	0	(0)
損失補償等限度額	0	0	(0)
損失補償契約等に係る債務残高	0	0	(0)
(参考) 市施設利用料金収入	136,411	136,371	(▲ 40)
うち非公募	0	0	(0)

6 財務指標に基づく評価

(金額単位：千円)

項 目		R5年度	R6年度	(前年比)	評価基準	備 考
(1)健全性	剰余金(n-o)	2,283,670	2,324,825	(+41,155)	前年比較増	正味財産-基本財産
	自己資本比率(n÷h)	18.5%	17.9%	(▲0.6%)	≥50%	正味財産÷資産
	流動比率(i÷l)	80.8%	100.1%	(+19.3%)	≥150%	流動資産÷流動負債
	固定比率(j÷n)	490.2%	490.1%	(▲0.1%)	≤100%	固定資産÷正味財産
	借入金依存度(p÷h)	32.0%	37.0%	(+5.0%)	前年比較減	借入金残高÷資産
(2)生産性	職員一人当り経常収益	17,375千円	17,047千円	(▲ 329千円)	前年比較増	経常収益÷職員総数
	人件費率(経常収益比)(d÷(a+f))	26.6%	27.0%	(+0.4%)	前年比較減	人件費÷経常収益
	職員一人当り管理費	10,496千円	10,124千円	(▲ 372千円)	前年比較減	管理費等÷職員総数
	管理費率(経常収益比)(c÷(a+f))	60.4%	59.4%	(▲1.0%)	前年比較減	管理費等÷経常収益
(3)自立性	市依存度（収入）	6.4%	6.3%	(▲0.2%)	前年比較減	市収入(注1)÷経常収益
	市財政的関与割合(収入)	12.4%	11.9%	(▲0.5%)	前年比較減	市収入(注2)÷経常収益
健全性の評価		<div><div><input type="checkbox"/> 非常に高い</div><div><input type="checkbox"/> 高い</div><div><input type="checkbox"/> 概ね健全</div><div><input checked="" type="checkbox"/> やや低い</div><div><input type="checkbox"/> 低い</div></div>				
理由	健全性については、剰余金は評価基準を上回っているものの、それ以外の項目の自己資本比率、流動比率、固定比率、借入金依存度については評価基準を下回っている状況であり注視していく必要がある。流動比率は昨年度と比較すれば改善している一方で、借入金依存度が昨年度比5%増となっていることを踏まえると依然として資金繰りには余裕はない状況にある。 生産性については、職員一人当たり管理費及び管理費率は評価基準を満たしていることは評価できるが、職員一人当たり経常収益は前年比較減となっており、生産性や収益力の低下が考えられることから、要因を分析して改善する必要がある。 自立性については、評価基準を満たしており、市に依存している状態ではないことは評価できる。					

(注1)市収入＝市補助金・交付金・負担金＋市業務委託料（随意契約分）＋市指定管理費（非公募分）＋市施設利用料金収入（非公募分）

(注2)市収入＝市補助金・交付金・負担金＋市業務委託料＋市指定管理費＋市施設利用料金収入

7 「札幌市出資団体の在り方に関する基本方針」に基づく具体的な行動計画の評価

ここでは、具体的な行動計画(※1)で示した取組目標について、指標(※2)の達成状況の評価を行う。

※1詳細については具体的な行動計画（別冊子）を参照

※2指標の実績値は各年度末時点のもの

(1)出資・出捐

○取組計画		現状値 (R 5 年度)	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	備考	
No.	指標名							
○出資比率の引き下げに向けた協議								
①	市出資金（資金準備金を含む）	目標	477,600千円	477,600千円	477,600千円	477,600千円		
		実績	477,600千円	477,600千円				
		評価	達成					
未達成理由と今後の対応（R 6 年度の評価が未達成の場合のみ記載する）								

(2)人的関与

○取組計画		現状値 (R 5 年度)	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	備考
No.	指標名						
○最低限の人的関与の継続							
①	役員の就任数（取締役）	目標	2	2	2	2	
		実績	2	2			
		評価	達成				
未達成理由と今後の対応（R 6 年度の評価が未達成の場合のみ記載する）							

(3)団体の活用

○取組計画		現状値 (R 5 年度)	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	備考
No.	指標名						
○藻岩山及び大倉山の利用者の増加							
①	藻岩山施設（ロープウェイ・観光道路）利用者数	目標	861千人	861千人	861千人	861千人	
		実績	783千人	886千人			
		評価	達成				
②	大倉山施設（リフト）利用者数(延べ人数)	目標	462千人	462千人	462千人	462千人	指標は延べ人数のためその旨を追記する。
		実績	399千人	407千人			
		評価	未達成				
未達成理由と今後の対応（R 6 年度の評価が未達成の場合のみ記載する）							
②コロナ禍を契機に旅行スタイルの団体旅行から個人旅行へ変化した影響が大きく、コロナ前の水準までは戻れていない状況のため、更なるインパウンドの取込やレストランも含めたイベント等の大口利用の招致等を行いながら誘客を進めていく。							

(4)更なる経営の安定化

○取組計画		現状値 (R 5 年度)	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	備考
No.	指標名						
○業務効率化による経費の削減							
①	一般管理費	目標		1,379,890千円	1,379,890千円	1,379,890千円	1,379,890千円
		実績	1,335,075千円	1,402,206千円			
		評価		未達成			
未達成理由と今後の対応（ R 6 年度の評価が未達成の場合のみ記載する）							
昨今の人件費・物価高騰による委託費等の労務単価の上昇等のため。							

(5)団体統制

○取組計画		現状値 (R 5 年度)	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	備考
No.	指標名						
	○社員の資質向上						
①	コンプライアンス研修の受講率	目標		100%	100%	100%	
		実績	100%	100%			
		評価		達成			
②	索道技術研修の受講率	目標		100%	100%	100%	
		実績	100%	100%			
		評価		達成			
未達成理由と今後の対応（R 6 年度の評価が未達成の場合のみ記載する）							

(6)札幌市の施策との連動

○取組計画		現状値 (R 5 年度)	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	備考	
No.	指標名							
○障がいのある方の自立支援								
①	障がいのある方の雇用人数	目標		4人(法定)	4人(法定)	4人(法定)	目標値を法定人数に合わせるため3人から4人に修正する。	
		実績	2人	1人				
		評価		未達成				
②	障害者就労施設からの物品調達・業務委託件数	目標		2件	2件	2件		
		実績	1件	1件				
		評価		未達成				
未達成理由と今後の対応（ R 6 年度の評価が未達成の場合のみ記載する）								
①札幌市障がい者元気スキルアップ事業を活用する等、随時、求職者情報の収集と業務内容のマッチングを行っているが、法定人数を満たす採用には至っておらず、継続して採用活動を行っていく。								
②名刺・広告物等の印刷業務の委託を検討したもののマッチングせず、今後も元気ジョブ等を活用しながら、物品調達及び委託業務の契約に向けた検討を継続していく。								

8 情報公開等の状況

ホームページ公開情報	
ホームページアドレス	https://sapporo-dc.co.jp/
Eメールアドレス	なし
【経営状況等】 <input checked="" type="checkbox"/> 定款 <input checked="" type="checkbox"/> 役員名簿 <input type="checkbox"/> 団体機構図 <input type="checkbox"/> 事業計画書 <input type="checkbox"/> 予算書 <input type="checkbox"/> 事業報告書 <input checked="" type="checkbox"/> 決算書 <input type="checkbox"/> 中長期的な経営計画	
【事業情報等】 <input checked="" type="checkbox"/> 実施事業（イベント）情報 <input checked="" type="checkbox"/> 管理施設情報 <input type="checkbox"/> その他（ ）	
ホームページ以外の情報媒体 広報誌・冊子の発行：パンフレット	

※特記ない限り、本評価シートの情報は令和 7 年7月1日現在のものです。

事業評価 (1) 不動産賃貸・駐車場事業等

1. 事業概要	事業所管課： 経 観光・MICE推進課	担当： 及川	電話： 011-211-2376
(1)事業内容	①建物賃貸事業 さつきた8・1、SDC北12条ビル、宮の沢ターミナルビル、白石ガーデンプレイス、セレスタ札幌、大谷地アドバンシービル（セカンドストリート等）、幌北総合センターすすきの市場、山の手店舗（インポート・プラス）新札幌薬局（クリオネ薬局）、さっぽろ創世スクエア北14条複合店舗（オートボックス）、旧小熊邸（ドリーバーデン）など ②月極・時間貸し駐車場の運営 二十四軒、新札幌、大谷地、琴似北14条、大谷地東、宮の沢（全てパークアンドライド実施）		
(2)事業目的	直営駐車場においては、地下鉄駅等の交通機関の要衝に位置することから、パークアンドライドを目的とした駐車場が多い。従って、都心の渋滞緩和や公共交通機関の利用促進を促すことを目的とする。		
(3)事業開始	平成10年度		

2. 実施結果

27. 実施結果

(1)事業収支 (単位：千円)	項目	R5年度	R6年度	(前年比)	
	収入	1,425,750	1,335,467	(▲ 90,283)	
	(経常収益比)	(44.4 %)	(39.2 %)		
	市補助金・交付金・負担金	0	0	(0)	
	市業務委託料	0	0	(0)	
	市指定管理費	0	0	(0)	
	市施設利用料金収入	0	0	(0)	
	自主事業収入（補助金除く）	1,408,862	1,314,762	(▲ 94,100)	
	その他収入	16,888	20,705	(+3,817)	
	費用（支出）	1,071,764	1,102,024	(+30,260)	
	事業費	1,040,988	1,062,288	(+21,300)	
	管理費等	30,776	39,736	(+8,960)	
	収支差	353,986	233,443	(▲ 120,543)	
収支比率	133.03%	121.18%	(▲ 11.85%)		
(2)活動指標		R5年度実績	R6年度目標	R6年度実績	R7年度目標
①	テナントに向けた不動産仲介会社との連携	実施	実施	実施	実施
②	ホームページ等での駐車場案内	実施	実施	実施	実施
③					
④					
⑤					
⑥					
(3)成果指標		R5年度実績	R6年度目標	R6年度実績	R7年度目標
①	直営駐車場（満車達成率）	70%	80%	70%	80%
②	賃貸ビル等（稼働率）	100%	100%	100%	100%
③					
④					
⑤					
⑥					

3. 所管局による評価

(1)事業の実施結果の有効性	事業目的に対して事業の効果は	<input type="checkbox"/> 十分出ている	<input checked="" type="checkbox"/> 高める余地あり	<input type="checkbox"/> 出していない
	直営駐車場の満車達成率の実績値令和5年度実績から変わらずに目標達成に至っていないことから、ホームページ等での駐車場案内を継続して実施するとともに、都心の渋滞緩和や公共交通機関の利用促進を図るために、更なる利用促進について取り組むよう強く求める。 なお、建物賃貸事業の稼働率は目標を達成しており、引き続き稼働率100%が維持できるようテナントや不動産仲介会社との連携について引き続き求める。			
(2)収支状況	当該事業の収支状況は	<input checked="" type="checkbox"/> 良好	<input type="checkbox"/> 見直しの余地あり	<input type="checkbox"/> 要改善
	収支については収支差・収支比率ともに昨年度よりもマイナスとなっているが、主な要因としては新幹線建設工事によるレールパーク札幌駐車場の営業終了したことによる減収であり、それ以外は堅調な売上で推移していることから評価できる。 今後も、経費削減に努めながら、安定的かつ継続的な収入を確保するために、賃料収入の増加のための施策を講じるなど、不動産及び駐車場の利用拡大の促進に努めていただきたい。			

事業評価（２） 札幌駅周辺自転車等駐車場管理

1. 事業概要	事業所管課： 建設局総務部自転車対策担当課	担当： 熊谷	電話： 011-211-2456
(1)事業内容	各種駐輪場の管理運営、駐輪場料金の収受		市指定管理費(公募) 13,871
(2)事業目的	駐輪場の適切かつ円滑な管理を通じた都市機能の維持向上を図るため		
(3)事業開始	平成19年度		

2. 実施結果

(1)事業 収支 (単位 千円)	項目	R5年度	R6年度	(前年比)	
	収入	49,968	47,460	(▲ 2,508)	
	(経常収益比)	(1.6 %)	(1.4 %)		
	市補助金・交付金・負担金	0	0	(0)	
	市業務委託料	0	0	(0)	
	市指定管理費	13,200	13,871	(+671)	
	市施設利用料金収入	33,997	33,589	(▲ 408)	
	自主事業収入(補助金除く)	2,479	0	(▲ 2,479)	
	その他収入	292	0	(▲ 292)	
	費用(支出)	48,053	46,082	(▲ 1,971)	
	事業費	45,775	44,390	(▲ 1,385)	
	管理費等	2,278	1,692	(▲ 586)	
	収支差	1,915	1,378	(▲ 537)	
	収支比率	103.99%	102.99%	(▲ 0.99%)	
(2)活動指標		R5年度実績	R6年度目標	R6年度実績	R7年度目標
①	職員の意識統制による親切で丁寧なサービスの徹底	実施	実施	実施	実施
②	自転車等管理システムによる円滑で正確な管理体制	実施	実施	実施	実施
③	定期券販売開始日等の繁忙期における人員増員(係)	実施	実施	実施	実施
④	パンフレット・ポスター・WEBを利用した周知	実施	実施	実施	実施
⑤					
⑥					
(3)成果指標		R5年度実績	R6年度目標	R6年度実績	R7年度目標
①	有料駐輪場利用者数(定期利用)	5,278	5,300	4,826	4,000
②	有料駐輪場利用者数(一時利用)	156,952	157,000	160,990	160,000
③	有料駐輪場利用料金収入(千円)	33,997	34,597	33,589	37,283
④	利用者満足調査(※)	93%	100%	94%	100%
⑤	※(ホームページでのアンケート調査で運営管理について「良い」「普通」「悪い」の内「普通」以上と回答した割合)				
⑥					

3. 所管局による評価

(1)事業の実施結果の有効性	事業目的に対して事業の効果は	<input checked="" type="checkbox"/> 十分出ている	<input type="checkbox"/> 高める余地あり	<input type="checkbox"/> 出していない
	施設の管理運営は適正に執行されており、アンケート結果からも利用者の満足度も概ね高く、安全・快適に利用できるよう管理されていることが見て取れる。			
(2)収支状況	当該事業の収支状況は	<input checked="" type="checkbox"/> 良好	<input type="checkbox"/> 見直しの余地あり	<input type="checkbox"/> 要改善
	収入は昨年を下回ったが、委託料の削減に努めたことで支出を抑え、結果としては黒字収支となっていることは評価できる。			

事業評価 (3) 大通周辺自転車等駐車場管理

1. 事業概要	事業所管課： 建設局総務部自転車対策担当課	担当： 熊谷	電話： 011-211-2456
(1)事業内容	各種駐輪場の管理運営、駐輪場料金の収受		
(2)事業目的	駐輪場の適切かつ円滑な管理を通じた都市機能の維持向上を図るため		
(3)事業開始	令和4年度		

2. 実施結果

(1)事業 収支 (単位 千円)	項目	R5年度	R6年度	(前年比)	
	収入	74,899	75,204	(+ 305)	
	(経常収益比)	(2.3 %)	(2.2 %)		
	市補助金・交付金・負担金	0		(0)	
	市業務委託料	0		(0)	
	市指定管理費	30,182	30,614	(+ 432)	
	市施設利用料金収入	44,717	44,270	(▲ 447)	
	自主事業収入(補助金除く)	0	246	(+ 246)	
	その他収入	0	74	(+ 74)	
	費用(支出)	73,233	72,551	(▲ 682)	
	事業費	69,911	72,435	(+ 2,524)	
	管理費等	3,322	116	(▲ 3,206)	
	収支差	1,666	2,653	(+ 987)	
	収支比率	102.27%	103.66%	(+ 1.38%)	
(2)活動指標		R5年度実績	R6年度目標	R6年度実績	R7年度目標
①	職員の意識統制による親切で丁寧なサービスの徹底	実施	実施	実施	実施
②	自転車等管理システムによる円滑で正確な管理体制の実践	実施	実施	実施	実施
③	定期券販売開始日等の繁忙期における人員増員(案内・整理・誘導対応)	実施	実施	実施	実施
④	パンフレット・ポスター・WEBを利用した周知徹底	実施	実施	実施	実施
⑤					
⑥					
(3)成果指標		R5年度実績	R6年度目標	R6年度実績	R7年度目標
①	有料駐輪場利用者数(定期利用)	6,044	6,100	5,181	4,000
②	有料駐輪場利用者数(一時利用)	235,695	236,000	242,230	241,000
③	有料駐輪場利用料金収入(千円)	44,717	44,840	44,269	50,797
④	利用者満足調査(※)	99%	100%	88%	95%
⑤	※(ホームページでのアンケート調査で運営管理について「良い」・「普通」・「悪い」の内「普通」以上と回答した割合)				
⑥					

3. 所管局による評価

(1)事業の実施結果の有効性	事業目的に対して事業の効果は	<input type="checkbox"/> 十分出ている	<input checked="" type="checkbox"/> 高める余地あり	<input type="checkbox"/> 出していない
	施設の管理運営は適正に執行されている。利用者満足度調査において前回結果を下回っていることから、お客様アンケートの意見を参考に、より満足度を向上できるよう改善していくこと。			
(2)収支状況	当該事業の収支状況は	<input checked="" type="checkbox"/> 良好	<input type="checkbox"/> 見直しの余地あり	<input type="checkbox"/> 要改善
	利用料金収入は計画や昨年実績を下回ったものの、消耗品のコストカットにより支出を抑え、結果としては黒字収支となっていることは評価できる。			

事業評価 (4) ジャンプ競技場等の管理運営

1. 事業概要	事業所管課： スポーツ局スポーツ部施設課	担当： 谷内	電話： 011-211-3045
(1)事業内容	①札幌市大倉山ジャンプ競技場 ②札幌市宮の森ジャンプ競技場 ③札幌市荒井山ジャンツェ ④札幌オリンピックミュージアム ・施設、設備の維持管理 ・施設の利用供与 ・大型映像車貸出 ジャンプ大会、防災訓練、各種道内イベント等 ・イベントの実施(自主事業) ウィンタースポーツフェスタ ピックラ！スポフェスin大倉山 大倉山冬花火などの実施		
	市指定管理費(非公募) 189,200		
(2)事業目的	観光・スポーツ施設の管理運営等を通じて都市機能の維持向上を図るため		
(3)事業開始	①、②、③：平成8年（1996年）4月 ④：平成12年（2000年）4月 ※平成18年からは指定管理者として業務を継続		

2. 実施結果

(1)事業 収 支 (単位 千円)	項目	R5年度	R6年度	(前年比)	
	収入	300,591	327,883	(+27,292)	
	(経常収益比)	(9.4 %)	(9.6 %)		
	市補助金・交付金・負担金	0	0	(0)	
	市業務委託料	0	0	(0)	
	市指定管理費	184,265	189,200	(+4,935)	
	市施設利用料金収入	57,697	58,512	(+815)	
	自主事業収入（補助金除く）	49,228	70,397	(+21,169)	
	その他収入	9,401	9,774	(+373)	
	費用（支出）	312,700	334,088	(+21,388)	
	事業費	280,146	300,013	(+19,867)	
	管理費等	32,554	34,075	(+1,521)	
	収支差	▲ 12,109	▲ 6,205	(+5,904)	
	収支比率	96.13%	98.14%	(+2.02%)	
(2)活動指標		R5年度実績	R6年度目標	R6年度実績	R7年度目標
①	ジャンプ 練習促進の為、ジャンプ 台無料開放(6/1～10/20の金土日)	10日間	実施	13日間	実施
②	ウインターフェスタの実施	中止	実施	中止	実施
③	オリパラ教育の実施	実施(63校)	実施(63校)	実施(63校)	実施(66校)
④					
⑤					
⑥					
(3)成果指標		R5年度実績	R6年度目標	R6年度実績	R7年度目標
①	リフト利用者数（延べ人数）	398,642	462,000	407,028	432,000
②	ミュージアム来場者数	114,867	130,000	117,754	125,000
③	ミュージアム来場者アンケート総合満足度	91%	95%	97%	95%
④					
⑤					
⑥					

3. 所管局による評価

(1)事業の実施結果の有効性	事業目的に対して事業の効果は	<input type="checkbox"/> 十分出ている	<input checked="" type="checkbox"/> 高める余地あり	<input type="checkbox"/> 出ていない
	大倉山ジャンプ競技場のリフト利用者数及び札幌オリンピックミュージアムの来場者数について、いずれも目標値には達していないものの、令和5年度実績と比較し微増している。 大倉山ジャンプ競技場では、スポーツ体験イベントや展望台リフトの夜間営業を継続して実施するなど、スポーツの普及振興に資する取組を行うとともに、札幌の主要な観光施設としての魅力発信を図り、観光資源としての施設活用にも力を入れていることは評価できる。 また、札幌オリンピックミュージアムでは、市内の小学校63校へのオリパラ教育を実施しており、オリンピズムの普及に貢献していると評価できる。 今後も大倉山全体の魅力を高める施策を実施し、ジャンプ競技をはじめとするウィンタースポーツの普及振興や観光振興に寄与していただきたい。			
(2)収支状況	当該事業の収支状況は	<input type="checkbox"/> 良好	<input checked="" type="checkbox"/> 見直しの余地あり	<input type="checkbox"/> 要改善
	施設利用料金収入や自主事業収入が増加し、収支は改善しているものの、従前に引き続き赤字となっている。新たな顧客の開拓や、大倉山全体の魅力を高めることにより、来場者数の増加を図り、安定した施設の管理運営に取り組んでいただきたい。			

事業評価 (5) 藻岩山観光事業

1. 事業概要	事業所管課： 経 観光・MICE推進課	担当： 及川	電話： 011-211-2376
(1)事業内容	①藻岩山ロープウェイの経営 ②藻岩山観光道路の経営 ③藻岩山頂展望台の経営 ④藻岩山スキー場ロッジの経営 ⑤藻岩山中腹売店の経営		
(2)事業目的	札幌の観光を代表する藻岩山は、自然を生かした観光資源の保全と活用を行い、更なる魅力アップ促進に努め、市民の憩いの場所、また、国内外の観光客で賑わう観光名所としての重要な役割を担っていくことが求められている。市民の藻岩山観光に対する再認識のための広報活動や観光客誘致のための営業活動等を通して、更なる利用を促進させる。		
(3)事業開始	昭和60年(1985年) 8月		

2. 実施結果

項目		R5年度	R6年度	(前年比)	
(1)事業収支 (単位 千円)	収入 (経常収益比)	728,674 (22.7 %)	898,013 (26.3 %)	(+169,339)	
	市補助金・交付金・負担金	1,650	575	(▲ 1,075)	
	市業務委託料	1,103	1,087	(▲ 16)	
	市指定管理費	0	0	(0)	
	市施設利用料金収入	0	0	(0)	
	自主事業収入(補助金除く)	710,058	880,514	(+170,456)	
	その他収入	15,863	15,837	(▲ 26)	
	費用(支出)	608,104	645,366	(+37,262)	
	事業費	585,405	634,817	(+49,412)	
	管理費等	22,699	10,549	(▲ 12,150)	
収支差	120,570	252,647	(+132,077)		
収支比率	119.83%	139.15%	(+19.32%)		
(2)活動指標		R5年度実績	R6年度目標	R6年度実績	R7年度目標
①	イベント回数	2回	3回	2回	2回
②	札幌市内小学校生徒等へのイベント告知(チラシ配布)	1回	1回	1回	1回
③	索道技術研修(外部主催)	10回	12回	13回	12回
④					
⑤					
⑥					
(3)成果指標		R5年度実績	R6年度目標	R6年度実績	R7年度目標
①	藻岩山施設利用者数(延人員)	783千人	861千人	939千人	925千人
②	市民割引利用者数(実人員)	19,942人	21,193人	21,918人	21,589人
③					
④					
⑤					
⑥					

3. 所管局による評価

(1)事業の実施結果の有効性	事業目的に対して事業の効果は	<input checked="" type="checkbox"/> 十分出ている	<input type="checkbox"/> 高める余地あり	<input type="checkbox"/> 出ていない
	藻岩山施設利用者数について、目標を達成したことは評価できる。引き続きサービスの向上や安全運行の強化に取り組むとともに、藻岩山全体の魅力向上を図ることにより、市民や観光客の満足度や利用率の向上を目指すこと。			
(2)収支状況	当該事業の収支状況は	<input checked="" type="checkbox"/> 良好	<input type="checkbox"/> 見直しの余地あり	<input type="checkbox"/> 要改善
	昨年度と比較して、収入・支出ともに増となっているが、支出に関しては利用者の増加・物価高騰等の影響によるものと推測されることから可能な限り支出抑制を求める。 道内外の観光客はもとより市民に対しても継続的な情報発信を行うことにより、利用率の向上を図り、安定的な収益の維持・向上に努めることを期待する。			

事業評価（ 6 ） 料飲事業

1. 事業概要	事業所管課： 経）観光・MICE推進課	担当： 及川	電話： 011-211-2376
(1)事業内容	①藻岩山山頂レストラン「ザ ジュエルズ」 ②大倉山ジャンプ競技場内「ヌーベルブース大倉山」 ③さっぽろテレビ塔「ザ ガーデンサッポロ 北海道グリル」 ④さっぽろテレビ塔ビアガーデン（夏期限定） ⑤その他、各レストランに付随するカフェ、ケータリング業務		
(2)事業目的	各レストランの所在地から「観光×レストラン」の事業特性を強みとし、【札幌のメインダイニング】としての認知拡充を図る。そして、その特性を生かした魅力を札幌から、観光客・インバウンドへ訴求する。		
(3)事業開始	令和5年（2023年）4月1日		

2. 実施結果

(1)事業 収 支 （ 単 位 千 円 ）	項目	R5年度	R6年度	（前年比）	
	収入	504,951	593,692	(+88,741)	
	（経常収益比）	(15.7 %)	(17.4 %)		
	市補助金・交付金・負担金	0	0	(0)	
	市業務委託料	0	0	(0)	
	市指定管理費	0	0	(0)	
	市施設利用料金収入	0	0	(0)	
	自主事業収入（補助金除く）	498,126	591,631	(+93,505)	
	その他収入	6,825	2,061	(▲ 4,764)	
	費用（支出）	557,362	607,031	(+49,669)	
	事業費	557,077	606,853	(+49,776)	
	管理費等	285	178	(▲ 107)	
	収支差	▲ 52,411	▲ 13,339	(+39,072)	
	収支比率	90.60%	97.80%	(+7.21%)	
(2)活動指標		R5年度実績	R6年度目標	R6年度実績	R7年度目標
①	各レストランにおける毎月の衛生点検の実施	実施	実施	実施	実施
②					
③					
④					
⑤					
⑥					
(3)成果指標		R5年度実績	R6年度目標	R6年度実績	R7年度目標
①	売上高	498,126	545,548	591,631	708,235
②					
③					
④					
⑤					
⑥					

3. 所管局による評価

(1)事業の実施結果の有効性	事業目的に対して事業の効果は <input type="checkbox"/> 十分出ている <input checked="" type="checkbox"/> 高める余地あり <input type="checkbox"/> 出していない
	観光事業と料飲事業に分かれており、レストランがもたらしている観光施設への経済効果がわかりにくい状況となっていることから、アンケート等で把握することを求めている。
(2)収支状況	当該事業の収支状況は <input type="checkbox"/> 良好 <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの余地あり <input type="checkbox"/> 要改善
	昨年度に引き続き支出が収入を上回っている状況にあることから、売上原価の見直しや人件費の見直しなど、事業が赤字となっている要因を分析して改善するよう強く求めている。

1 貸借対照表

令和7年3月31日現在

(単位：円)

資 産 の 部		負 債 及 び 純 資 産 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
I 流 動 資 産	1,634,035,530	I 流 動 負 債	1,632,444,838
現 金 ・ 預 金	1,194,030,585	一 年 以 内 返 済 借 入 金	416,976,000
売 掛 金	839,338	買 掛 金	15,984,655
商 品	34,465,264	未 払 金	198,492,719
材 料 品	11,517,446	未 払 費 用	906,013
貯 蔵 品	47,831,956	未 払 消 費 税 等	15,162,500
前 払 費 用	47,845,311	未 払 法 人 税 等	1,410,000
立 替 金	1,254,000	前 受 金	112,172,108
未 収 金	158,388,407	預 り 金	10,725,531
仮 払 金	94,333,199	仮 受 金	133,050,648
未 収 消 費 税	43,485,100	リ ー ス 債 務	227,564,664
未 収 法 人 税 等	44,924	一 年 以 内 返 済 社 債	500,000,000
II 固 定 資 産	11,883,781,809	II 固 定 負 債	9,460,547,044
1 有形固定資産	(11,447,586,603)	長 期 借 入 金	4,078,039,000
建 物	4,331,450,655	退 職 給 付 引 当 金	104,222,904
建 物 附 属 設 備	821,867,437	解 体 損 失 引 当 金	280,580,904
構 築 物	304,581,402	預 り 敷 金	1,012,416,992
機 械 及 び 装 置	806,540,423	預 り 保 証 金	102,157,894
器 具 備 品	75,689,928	リ ー ス 債 務	3,883,129,350
車 両	11,250,023		
リ ー ス 資 産	3,924,780,168		
土 地	767,550,567		
建 設 仮 勘 定	403,876,000		
2 無形固定資産	(4,664,063)	負 債 合 計	11,092,991,882
電 話 加 入 権	2,475,662	株 主 資 本	2,424,825,457
商 標 権	977,029	1 資 本 金	100,000,000
ソ フ ト ウ ェ ア	1,211,372	2 資 本 剰 余 金	462,600,000
3 投資その他の資産	(431,531,143)	資 本 準 備 金	462,600,000
差 入 保 証 金	415,885,026	3 利 益 剰 余 金	1,862,225,457
預 託 金	143,250	1) 利 益 準 備 金	42,330,000
投 資 有 価 証 券	8,001,000	2) その他の利益剰余金	1,819,895,457
保 険 積 立 金	220,800	固 定 資 産 圧 縮 積 立 金	191,579,363
長 期 前 払 費 用	7,281,067	別 途 積 立 金	2,005,000,000
		繰 越 利 益 剰 余 金	△ 376,683,906
資 産 合 計	13,517,817,339	純 資 産 合 計	2,424,825,457
		負債及び純資産合計	13,517,817,339

2 損 益 計 算 書

自 令和 6年 4月 1日

至 令和 7年 3月 31日

(単位：円)

科 目	金 額	
I 売 上 高		3,361,675,917
地 代 及 び 家 賃 収 入	1,081,534,257	
駐 車 場 収 入	192,472,555	
受 託 料 収 入	253,434,987	
索 道 収 入	830,228,396	
利 用 料 金 収 入	161,820,798	
そ の 他 売 上 高	842,184,924	
II 売 上 原 価		265,717,244
売 上 総 利 益 (△ は 損 失)		3,095,958,673
III 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		2,991,692,846
営 業 利 益 (△ は 損 失)		104,265,827
IV 営 業 外 収 益		47,642,522
受 取 配 当 金	220,000	
そ の 他 営 業 外 収 益	47,422,522	
V 営 業 外 費 用		81,798,582
支 払 利 息	73,217,050	
社 債 利 息	1,319,262	
そ の 他 営 業 外 費 用	7,262,270	
経 常 利 益 (△ は 損 失)		70,109,767
VI 特 別 利 益		280,580,904
解 体 負 担 金 収 入	280,580,904	
VII 特 別 損 失		302,147,239
固 定 資 産 除 却 損	311,605	
解 体 損 失 引 当 金 繰 入	280,580,904	
立 退 費 用	21,254,730	
税 引 前 当 期 純 利 益 (△ は 損 失)		48,543,432
法 人 税 、 住 民 税 及 び 事 業 税		1,410,000
当 期 純 利 益 (△ は 損 失)		47,133,432